

麻生区 地域包括ケアシステム講演会

若者の居場所と本音

～進路・友人・恋愛・就活のリアル～

《目次》

- 1 ページ・・・ ①居場所の始まりは子ども食堂
②子ども食堂から広がった地域活動
(まっち楽習塾・ドッジボール講座)
- 2 ページ・・・ ③地域活動からできた人の繋がり、居場所
- 3 ページ・・・ ④地域活動を行う若者の声
- 5 ページ・・・ ◎ソーシャルデザインセンター(SDC)とは？
- 6 ページ・・・ ◎「地域包括ケアシステム」
◎休眠預金活用事業とは？
- 7 ページ・・・ ◎登壇者のご紹介



本日発表している若者たちの活動の基盤となっているのは、
NPO法人麻生区ソーシャルデザインセンターと(一社)多摩区ソーシャルデザインセンターという団体です。

この2つの団体は、川崎市の施策により設立されました。多世代の市民が集まり、地域での助け合い活動を行い、広める取り組みを行っており、その中には **高校生・大学生をはじめ、20～30代の若者**が多く参加しています。

これらの活動のきっかけとなったのが「子ども食堂」です。子ども食堂や、そこから広がった他の活動は単なるボランティアの場ではなく、「**若者の居場所**」にもなっています。地域活動が居場所となっている背景には、親や先生のような「タテ」の関係でも、友人のような「ヨコ」の関係でもない、「**ナナメの関係**」

が出来る場所であることが関係しています。多世代のメンバーと活動する中で、若者たちは、**親には話づらいことを相談**出来たり、**友人とは違う気づきを得たり**しています。

20～30代の若者の中には、一見悩みが無さそうでも、進路・就職・人間関係などに不安を抱え、生きづらさを感じている人も少なくありません。自分の本音に気づかずじたり、話せなく抱え込んだりしてしまうこともあります。しかし、**友人や“ナナメの関係”**の存在と出会い、対話を重ねることで、新たな気づきを得て、**自分と向き合い乗り越えて行く若者**も多くいます。

本日は、生まれ育った地元で地域活動を行う、**悩みながらも成長する若者たちのリアルな体験**をお伝えします。

共催

- ・麻生区役所
- ・NPO法人 麻生区ソーシャルデザインセンター(あさおSDC)
- ・一般社団法人 多摩区ソーシャルデザインセンター (多摩SDC)

協力

麻生区社会福祉協議会

お問合せ

麻生区役所地域みまもり支援センター地域ケア推進課
TEL 044-965-5300 FAX 044-965-5169

麻生区HP



① 居場所のはじまりは… 子ども食堂

共働き世帯への子育て支援
食支援でコミュニティも形成
5年で1→17カ所に拡大！
スタッフは地元出身大学生

●子ども食堂のはじまり

私たちは「子育て支援」、「コミュニティ」をテーマとし、地元川崎市出身の若者を中心に活動しています。近年は共働き世帯が多くなっており、川崎北部はベッドタウンとしての需要が高いという特徴があることから、仕事が終わった後～寝るまでの時間帯で子育て支援のニーズがあるのではないかと考えた。子ども食堂を始めました。①月に1回、夜ご飯づくりを休める。②親子同士、保護者や子ども同士での会話を楽しみながら、ゆっくり食事ができる。というコンセプトのもと、地域の居酒屋の空き時間をお借りして始めました。初めは1か所であった会場も、現在は地域の飲食店や法人と連携している会場を含め、麻生区・多摩区で合計17か所にまで拡大しました。



② 子ども食堂から 広がった 地域活動

子ども食堂が居場所に
宿題を終わらせる学童
大会場で書初め教室
スタッフは地元出身学生

●子ども食堂での保護者の声

月1回、継続して子ども食堂を実施していると、自然と保護者や子どもの居場所となっていました。そこで、保護者との会話の中で、「家に帰る前に宿題が終わっていると、負担が少ない。」といったお話があり、宿題を終わらせる学童を始めました。最初は長期休暇の宿題に特化し、「地域のお兄さん・お姉さんとなら頑張れる！」や「冬休みの書道の宿題は家が汚れて大変だったが、清書まで完了してもらえて助かる。」と好評をいただきました。長期休暇に特化した学童が軌道に乗ったところで、毎日の宿題を終わらせる学童、「まっち楽習塾」を始めました。まっち楽習塾では小中学生を中心に、学校やわくわくプラザ（小学校の学童保育）から通ってもらい、自宅に帰る前に宿題を終わらせるとともに学習習慣をつけ自分で勉強ができる力を身に付けることを目的に実施しています。



●子ども食堂・学習支援からスポーツ講座へ

子ども食堂の活動を継続・拡大をしていく中で、川崎市内の小学校で実施されている「寺子屋」の中で何か企画をしてもらえないか？という依頼がありました。そこで、「小学生の休み時間といえば、ドッジボール！」という話題になり、「休み時間が楽しくなれば、学校に通うのが楽しくなるのではないか。」「家に帰ってからの保護者との会話も増えるのではないか。」という考察をたてました。これらが達成されることで、「最終的には不登校児童の対策にも繋がる。」という考えのもと、球技経験者を中心にドッジボール講座を開催しました。講座を通して、ボールを上から投げられるようになるプログラムを実施しました。「ボールを投げられた！」という達成感を家庭で保護者に話すことで、家庭内の会話を増やす事にも繋がっています。



小学校の花形スポーツ
週末親子で行ける場所
学校を更に楽しみに

各活動の紹介はこちら↓



3 地域活動から 繋がり、居場所

●多岐に渡る活動を続けていたら…

発足以降、子ども食堂とあわせて**ドッジボール講座**、**入学準備説明会**などの新たな事業の実施をしていくうちに、地域の大人や、参加当初は学生であった若者が社会人として参加をするようになり、**多世代のメンバー**が集まるようになりました。活動を通してメンバーの交流を深めていくにつれ、自然と**“居場所”**としての意味を持つようになりました。多世代のメンバーで構成されているため、親や先生のような「タテ」の関係でも、友人のような「ヨコ」の関係でもない、「**ナナメ**」の**関係**で、進路、就職、友人関係などの**本音の相談**をすることの出来る居場所として、参加をする若者が多くいます。

多世代が集まる
学生メンバーが社会人へ
“ナナメ”の関係ができる
活動の場から居場所へ
本音を相談できる場所

～こんなことが話されています～

- Aさん：就活中したいことが見つかり通信制の大学に編入。
オンライン授業と課題がうまく行かない。
- Bさん：就職したがうまく行かない。本当にこのままで良いのか？
やりたいことは何か？日々悩んでいます。
- Cさん：大学進学を期に上京。コロナにより人に会えず、
見知らぬ地で孤独に直面する。
- Dさん：「自分はこれまで何をして来たのか」
「自分には何ができるのか」と考えるようになった。
- Fさん：高校で進路を決めて●●●になる学科に入ったが、
思ったような仕事ではなかった。
- Gさん：うまく行かないことが続き、朝起きられない日が増える。
- Hさん：バスケ（スポーツ）をしたいが仲間がいない。 ほかにも多数

親子と親子 保護者と学生 学生と社会人

学生のロールモデルに

川崎市北部は、平均世帯年収が比較的高いという特徴もあり、母親が専業主婦やパートタイムで働いている家庭出身、かつ幼稚園出身者の学生が多く活動に参加していました。こういった学生は、「**共働きでの子育てのロールモデル**」がなく、子ども食堂やドッジボール講座等の活動を通じて初めて共働き世帯の保護者の方と接することになりました。「子育て・仕事・家庭の両立は想像以上に苦労が多い。」という**実際の体験談**や、社会に出る前に知っておいた方が良い知識など、**活動を通じて学生が将来を考える機会**にもなっています。

子ども食堂などの活動を通じ、深く関わった大人 (=ナナメの関係)の支援により、若者が地域の中 で見守られながら社会的な経験を積んだ事例

若者を 地域で見守る 地元企業で 社会体験

事例①高齢者向けデイサービスでのインターン

「大学を卒業し、学部での学びを生かす職業に就いたが、入社2～3年で**やりがい**や**目標の面で行き詰まり**を感じ、地方公務員への転職を決めました。前職退職後～転職先への入職前の半年程の期間限定で、デイサービスでの仕事を紹介していただきました。地方公務員としても必要な利用者さん（市民）に寄り添った接遇、社会福祉制度等を学べる他、社会での疲れを軽減するリハビリ期間に温かく受け入れていただきました。その後、デイサービスで学んだ利用者さんとの接し方は、認知症サポーターの活動や、エンディングノート講座に生かすことができ、地方公務員として必要な多くのことを学ばせていただきました。」

事例②保育園でのインターン

大学2年生で保育士の資格を取得した大学生と、保育士資格を取得予定の大学生が、**インターン的に地域の保育園でアルバイト**をしました。「現場のアルバイトとして責任ある立場を任せられ、子どもとの関わりのみならず、保護者の方との関わりからも多くのことを学びました。子ども食堂等の活動に参加をする際は、保育園でのインターンで得た子どもとの接し方や対人スキルを生かし、地域に貢献することができました。」

これらの事例では、**地域の若者を大人が見守り**、経験の場を提供することにより、将来経験するであろう、保育園（子育て）や介護（自身の親）について**ロールモデル的に生の声を聞く**ことができました。また、若者を受け入れる地域の企業としても、地域貢献の一環として若い人材を育成し、輩出することのできる取り組みとなりました。

地域活動を行う若者の声

多摩区や麻生区のSDCで活動する高校生から社会人のメンバーに、今までの辛かったことや困った経験、その乗り越え方やSDCの活動に参加する理由を聞きました。本日の講演会に参加しているメンバーも多くいます。直接話を聞いてみたいなどありましたら、お近くのスタッフにお尋ねください。

人間関係や学校生活そして自分自身のことなど…
多くのことに悩みながらも
向き合ってきた経験について
聞いてみました

学校

人間関係



高校時代、仲の良かった友人との関係が崩れ、先生や同級生との関わり方が困難になりました。休みを挟み、人間関係構築を1度休むことで落ち着いて学校生活に復帰できるようになりました。また、このことが解決すると高校3年生の途中で燃え尽き症候群を経験しました。母親にすべての思いをぶちまけて、自分のお気に入りの場所に出かけに行くことで乗り越え、それまでの日常に戻りました。SDCには昔から通っていることもあり、先輩というより兄・姉のような存在なので憧れや親戚のような親しみがありません。

進路

就職



進路選択の際に就職に困らないよう、資格取得できる大学に進学しました。大学では、楽しく学問を学び、友人と過ごしながらも授業や実験、論文など忙しく、大変でもありました。卒業後、資格を活かして働き出しましたが、思い描いていたキャリアとのギャップや、これまでに経験のない社会の尺度やルールに悩みました。悩むのは自分に原因があるのか、環境の問題か、時間が解決してくれるのか、それすらも分かりませんでした。

受験

学校



大学入試の総合型選抜がダメで、一般入試の勉強をしている期間が一番辛かったです。乗り越えるために、大学に入ったら〇〇をしようという目標を立て、それをモチベーションに頑張りました。乗り越えたのは、先輩たちの楽しそうな話を聞いて、自分もキラキラした大学生活を送りたいと思ってくれたからだと思っています。SDCに来ている理由は、色んな学年の色んな学校の人が来ていて、色んな話が聞けて面白いからです。

学校

SDC



私は中学生の時に、学校に行くにいくと感じる時期が半年ほどありました。理由は漠然としたものですが、友達や学校の先生の協力によって、再び楽しく学校に行けるようになりました。そのような時の、学習の補助をしてくれた人たちの優しさを今度は自分が行きたいと思い、今では多摩区ソーシャルデザインセンターの活動に参加しています。ここでは、先輩や同期と楽しく活動できているので、活動を継続できています。



受験

浪人



兄が学業において優秀で、高校や大学においてレベルの高い学校に進学していたこともあり、親から自分もそのレベルを求められてプレッシャーを感じていました。結果、高校受験では直前の模試で思っていたような結果が出ず、精神的に落ち込んでしまい、志願変更することになりました。また、大学受験では失敗して浪人をする事になりました。浪人期は朝早くから夜遅くまで毎日予備校に通い、辛い日々を送っていました。勉強も上手くいかなかったりしてストレスを感じていたこともあり、体重が過去最大(今までの体重+10kgくらい)になったりと辛い日々でしたが、同じ予備校に通っていた友人と一緒に頑張ること(自習を一緒にやったり、お昼休みや行き帰りで会話したり)で乗り越えることができました。

受験

学校



私が今までで辛かったことは、大学受験で志望校に落ち、失敗したと思ってしまったことです。その時は、周りの友達の偏差値や学校名と自分の通うことになった大学とを比べてしまったり、学校の先生からも落ちたことに対して批判されたりして辛かったです。でも、SDCの活動や大学4年間を通して、結局は人柄・経験・出会いや大学で何を学び、何を研究し、将来学びや研究を自分で活用できるようにすることが大事なんだな、と強く感じました。そこからは、前に進むことができました。学歴しか考えられていなかった高3の私は、大学生活で色々な人と関わり、普通に大学と家との往復だけでは体験することのできない様々なことを経験し、学び、視野を広げることができました。



進学

学校

私は小学校から中学までハンドボールをやっていました。ですが、ハンドボールの強い高校は偏差値が高く、自分には目指せなかったの、自分の学力で行ける高校に行きました。最初は男子ハンドボール部のマネージャーをしようと思っていましたが、自分がプレイヤーで活躍できないのは辛いと思い、入部をやめることにしました。今は友達に誘われたバレーボール部に入っています。新しいことに挑戦するのも自分の経験になると前向きに思うことで、新たな一歩を踏み出すことができました。SDCでは、学校関係なく色々な人と関わることができ、一緒にイベントすることに魅力を感じています。



SDC 自分



私がSDCに来る理由は、私にとってここが自分を再確認できる場所だからです。どんなに忙しくても、ここに来れば心が落ち着き、自分らしさを取り戻すことができると感じています。また、他のメンバーとの交流を通じて視野が広がり、成長を実感できることも大きな魅力です。SDCはただの活動の場ではなく、心の支えとなる場所として、私の生活に欠かせない存在となっています。

受験 学校



私がつまづいた経験は大学進学です。大学受験がひと段落つき、自分が思っていたような大学に進学することができないことが決まったとき、受験を延長するか悩んでいました。しかし、両親は選んでくれる大学から選んで欲しいの一点張りだったので、私は諦めて今の大学への進学を決めました。時間が経つにつれて気にしなくなりましたが、SDCという居場所で自分が活躍できたことも乗り越えることができた一つのきっかけとなりました。

進路 自分



就職活動中に小学校の先生というやりたい夢が見つかり、思い切って進路を変更して大学へ編入しました。しかし、不器用な自分は周りが当たり前にこなしていることも上手くできず、助けを求めることにもためらいがありました。その結果、多くの苦労を経験しましたが、周囲の人の支えや温かさを感じることができ、自分一人で抱え込まないことの大切さを学びました。SDCには、他の活動では得られない経験をたくさんすることが出来るため自信の成長と楽しい居場所になっているため参加しています。

受験 学校



高校3年間そこまで勉強をしていなくて、総合型も落ちてしまった。一般入試まで2ヶ月しかなかったときにとても焦りました。家族や友だちと会話することで気持ちを落ち着かせて、勉強をがんばることができました。SDCには最初は友だちに誘ってもらって、自分の将来の職にも活かせると思い、参加し始めました。今は会う約束をしなくても誰かしら友だちや先輩・後輩に会えるからという理由が1番大きいです。

学校 自分



高校1年生の秋に急激に体調を崩し、約1ヶ月学校を休んでいました。休むことからくる焦りや、親への申し訳なさを感じながら過ごしていたのを覚えています。しばらくして大学病院へ行き、偏頭痛の予防注射を打つことで少しずつ学校に行けるようになりました。遅れて行くことから始め、HRから出席できたのは約2ヶ月後でした。回復してから少しした頃、学校にチラシが届き、SDCの活動に参加し始めました。現在も定期的に注射を打ち、自分の体調と向き合いながら活動を続けています。

SDC 仲間



私は、コロナ禍で外で遊んだり友達と関わる機会が減ってしまった子どもたちに、楽しい時間を届けたいと思い、SDCの活動に参加しました。実際に活動してみると、子ども食堂やスポーツイベントを通して子どもたちが笑顔で楽しんでいる姿を見るたびに自分も元気をもらいました。また、地域の方々やボランティアの仲間と協力する中で、人とのつながりの大切さを実感しています。今後も地域に貢献していきたいと思っています。



進学 人間関係

大学進学を機に川崎へ来たものの、コロナ禍で授業もサークルもありませんでした。知り合いもおらず、「何のために来たんだろう」と孤独と焦りを感じていたとき、アルバイト先で出会った先輩に誘われ、SDCの子ども食堂の活動に参加しました。最初はイベント当日だけ楽しく参加していたが、活動している先輩たちに憧れて、少しずつ深く関わるようになっていきました。人間関係や物事を進める中で、自分の不器用さや至らなさに気づかされ、地元では成績が取れていれば問題なかったが、それだけでは何もできないことを知りました。何度も感覚の違いですれ違いそうになったり失敗しましたが、周りは突き放すことなく、真剣に向き合ってくれました。今でもうまくいかないことは多く、何に悩んでいるのか分からなくなることがありますが、時には周囲に頼りながら、自分と向き合う練習を続けています。



学校 恋愛

高校生のときに、ずっと好きだった子に彼女がいたことがわかりました。自分に嘘をつかれていたことへの悲しさや、その人中心にまわっていた自分の生活が崩れたことで、モチベーションも気分が上がらなくなることが多くなりました。また同時期に友人の悩み相談にのっていたことで、友人の気持ちに引っ張られ、自分の方が落ち込むことが多くなりました。何かきっかけがあって急激に解決したわけではありませんが、今はこのマイナスな気持ちも上手に扱っていけるようにしています。



学校 人間関係

小学校の高学年のときに人間関係に悩みました。私は、最初揉め事に巻き込まれただけでしたが、派閥みたいに分れてしまい、自分もそれに乗っかり、友人と一緒に悪口などを言っていました。誰かが先生に伝えたことで、呼び出されて怒られました。その時に「巻き込まれたなら、友達をとめないといけませんよ。」と言われボロボロ泣きました。それ以降仲の良い友達が間違ってる行動をしていると感じたら注意をするようになり、関わる人間も選びました。そうしていくことで、人間関係に恵まれ、楽しい人生を送れるようになりました。



自分 SDC

自分の意見が持てない、周りと同じように動きたいのに、器用に臨機応変に行動ができない、いつも周りと自分を比べてばかりで苦しく感じていました。理想を高く持ちすぎて、自分で自分の首を絞めていて、もっとできない自分を受け入れられたら楽になれるがそれが難しく、変なプライドがそれをずっと邪魔していました。何かしらの発達障害があるんじゃないかと本気で思うこともありました。SDCではそんな「できない」ばかりを目の当たりにして辛いこともおおくありましたが、そこでぶち当たったから、社会に出て揉まれてやっと自分が思う生き方ができるようになってきたと感じています。



●ソーシャルデザインセンター（＝SDC）とは？

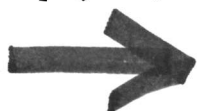
コミュニティづくり 市民主体の活動 地域をつなぐ役割 市内7区に創設

川崎市では、暮らしを取り巻く環境の変化（①超高齢化と人口減少社会の到来、②地域コミュニティの希薄化、③新たな公共サービスの模索、④新しい「豊かさ」の探求、⑤持続可能性への挑戦）から予想される課題の解決のため、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」（以下、「考え方」）が策定されました。この「考え方」の中で、「ソーシャルデザインセンター（以下、SDC）」は、市民が主体となり、地域での様々な新しい活動や価値を生み出し、人と人、団体と団体などをつなぎ、取り組みを実現可能にする役割を担う組織として、各区に創設されました。

【SDC】

地域の人・団体・
企業・活動をつなぐ
市民の「やりたい」
を実現するサポート
ニーズを見つける
交流のきっかけづくり

サポート



【まちのひろば】

- ・参加のきっかけになる地域の居場所
 - ・サードプレイス
 - ・誰もが気軽に集える出会いの場
 - ・生きがいになる場所
- 例）・カフェ・サロン
・居酒屋
・サークル活動
・公園など

子ども食堂・まっち楽習塾・ドッジボール講座
＝気軽に集える地域の居場所＝「まちのひろば」
居場所づくりに加え、まちのひろばのモデル事業としても行っています。

●SDCの活動

女性が社会参加が進む一方で、共働き家庭では子どもと向き合う時間がとりにくく、子育てと仕事の両立に悩む家庭も少なくありません。私たちは、そんな家庭を地域で支え合えるられるよう、それぞれ学業や仕事を続けながら各々ができる部分でお手伝いをする活動を行っています。このような活動は「川崎市これからのコミュニティ施策の基本的な考え方」に基づいています。それは超高齢化・人口減少など暮らしを取り巻く変化から予測される「絶望のシナリオ」を「希望のシナリオ」にするために策定されました。

子育て家庭サポート 地域での支え合い できる部分の支援 希望を目指して

【絶望のシナリオ】

人とのつながりが薄れ、
支え合いのない未来

- ・孤独死
- ・災害時の対応が
できないなど

【希望のシナリオ】

子育て世帯や高齢者、
障がいのある方も、
誰もが地域の中で自然に
支え合える未来

多様性が認められ、
誰もが生きやすく

人と人、人と地域
助け合いを創出
地域課題の解決
希望のシナリオ実現
幅広い世代が参加

「ソーシャルデザインセンター」は、これを達成するために、人と人・人と地域をつなげながら助け合いを生み出す拠点として設置されました。また、「まちのひろば」を広める仕組みを通して、市民が主体的に地域の課題を解決していくことを目指しています。こうした取り組みを重ねることで、「希望のシナリオ」の達成を目指しています。

また川崎市は全世代向けの施策を展開しているため、子育て支援だけでなく、学生や高齢者も巻き込んだ活動を行っています。

●「地域包括ケアシステム」(＝地ケア)

医療や介護だけに頼らず
地域の中でみんなが支え合い
住み慣れたまちで安心して
暮らせるようにする仕組み

特に私たちができることは**自助・互助**と捉え、
子どもから高齢者まで誰もが自分らしく幸せに暮らせる
ように

- ・自分で心身の健康を保とう
- ・自分ひとりで難しいところは、**地域コミュニティ**で助け合おう！

という考えのもと活動しています。

「地ケア」の柱＝4つの「助」

自助

自分自身の
生きがいがづくり
健康づくり
介護予防への取り組み

互助

周囲との支え合い
町内会やボランティ
ア活動への参加

共助

医療や介護などの
社会保険制度
によるサービス

公助

高齢・障がい者
福祉などの
行政による支援

地ケアについて
詳しくはこちら



●「地ケア」と「これからのコミュニティ施策」

前頁で出てきた「これからのコミュニティ施策の基本的な考え方」は「地域包括ケアシステム」を**人のつながりの面から支える**役割を担っています。

参考：「川崎市地域包括ケアシステムポータルサイト」https://www.kawasaki-chikea.jp/?p=42426&view_cat=28

●休眠預金活用事業とは？

2019年度から始まった休眠預金等活用法に基づき、銀行口座に長く眠っているお金を社会課題の解決や民間公益活動のために活用する仕組みです。

多摩SDCではこの資金で「子ども・若者の健やかな育ちと社会的自立」を目的に、若者の居場所づくりや社会参加を支える取り組みを行っています。

悩みや気持ちの変化とともに過ごす若者が地域活動を通して人との繋がりを作り、自分らしく生きられるようになるきっかけづくりに取り組んでいます。



More
Info
>>>

多摩SDC

HP

Instagram

Facebook



あさおSDC

HP

公式LINE

Facebook



青少年問題
協議会



●登壇者のご紹介

◆トークセッション

むらい ゆういち
村井 祐一氏

田園調布学園大学副学長
人間福祉学部社会福祉学科 教授
あさお福祉計画及び
地域包括ケアシステム推進会議委員



◆スペシャルゲスト

しば としお
柴 俊夫氏

公益財団法人
こどものための柴基金
代表理事

チャリティーコンサートを始め、30年以上子どもの支援を続けています。



若者(大学生)

多摩区・麻生区出身の10～30代
子ども食堂のボランティアなどを行う

出身中学校 はるひ野、白鳥、柿生、金程、麻生、西生田、王禅寺中央、長沢、桐光、南生田、南菅、生田、枅形、稲田、中野島、菅、向丘、高津、西中原、野川、中原、玉川、塚越、市川崎附、日女附など **出身高校** 市川崎、市橋、新城、川崎北、向の岡工、多摩、生田、生田東、百合丘、麻生、麻生総合、桐蔭、桐光、海老名、元石川、市ヶ尾、厚木、日女附、専大附など ※他、地方出身者も多くいます。



たわら たかのり
俵 隆典氏

NPO法人麻生区ソーシャルデザインセンター 代表理事
一般社団法人多摩区ソーシャルデザインセンター 学生のお世話役
NPO法人アイゼン 理事
「結」グループ代表、(株)日本ライフケアなど各グループ代表



NPO法人アイゼンで、麻生区にて子ども食堂を始めた。その後、地域と連携を深めながら互助の関係を築き、子ども食堂を増やしてきた。同様の活動を行おうと現在は川崎のみならず全国から視察が相次いでいる。子ども食堂を起点として多くの子育て支援の活動が誕生し、その流れから地域で誘われるがままに、多摩SDC、あさおSDCの立ち上げに関わり現在に至る。

本業では、介護・調剤・保育・教育などの事業を行っており、そのリソースも地域活動に活かしている。現在は、特定技能ビザによる介護外国人材の受け入れ事業、連帯保証など家族の代わりを務める身元保証事業、そして長年続いてきた地域の学習塾を引き継ぎ自助的な学習を行える塾の開設など、特にこの3分野に力を入れている。本業の傍ら、保育士、准看護師、キャリアコンサルタント、市民後見人、生活支援コーディネーター、認知症キャラバンメイトなどの多様な資格を取得し活動に携わり、本業での経験を地域貢献へとつなげている。

地域活動では、将来の備えとしてのエンディングノート(終活)講座や市民講座の開設に力を入れている。また就職活動・大学受験の自己推薦(総合型選抜)入試のお手伝いも行っており、高校生・大学生の成長を育みながら行うサポートには定評がある。最近では若年層の転職相談にも応じ、キャリアコンサルタントとしての専門的な視点からの的確なアドバイスを行うなど、活動の幅を広げている。